

平成 26 年度

自 平成26年4月1日 ~ 至 平成27年3月31日

# 事業報告

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟

## 〔I〕法人の概要

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟は、内閣総理大臣より公益社団法人への移行が正式に認定され、平成23年4月1日に設立登記を行った。

### 1. 設立年月日

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟 (沿革)	平成23年4月1日
日本アマチュアダンス協会	昭和52年4月1日
日本ダンススポーツ連盟	平成11年2月7日
社団法人 日本ダンススポーツ連盟	平成14年8月6日

### 2. 定款に定める目的

この法人は、わが国におけるダンススポーツの統一組織として、ダンススポーツの振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

### 3. 定款に定める事業

- (1) ダンススポーツ競技会の実施、認定及び競技規則の制定
- (2) ダンススポーツに関する講習会等の実施及び啓発・普及活動
- (3) ダンススポーツ競技者、指導者及び審判員の育成
- (4) ダンススポーツ競技者、指導者及び審判員等の認定、資格付与及び規則の制定
- (5) ダンススポーツ技術に関する認定、資格付与及び規則の制定
- (6) ダンススポーツに関するサークル、クラブの育成及び認定
- (7) ダンススポーツに関する用具の検定、技術の研究、競技会システム及び審判システムの開発並びに供与
- (8) 機関誌等刊行物の発行
- (9) ダンススポーツに関する国際的競技会及び国際会議への代表者の派遣並びに海外からの選手、役員及び指導者の招聘
- (10) 国際オリンピック委員会（IOC）に承認されたダンススポーツ国際組織に加盟してその行う事業への協力及び相互理解の促進
- (11) 日本オリンピック委員会（JOC）等の国内スポーツ組織への加盟及びその事業への協力
- (12) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

その他、公益事業の推進に資するため、次の事業を行う。

- (1) ダンススポーツの用具等の販売
- (2) その他、上記各号に関連する事業

### 4. 所轄官庁に関する事項

平成23年4月1日より 内閣府

平成23年3月31日まで 文部科学省 スポーツ青少年局生涯スポーツ課

### 5. 主たる事務所

平成22年8月1日より 東京都江東区有明3-4-2

## 6. 会員に関する事項

	(平成27年3月31日現在)	(平成26年3月31日現在)
一般会員 <sup>(注1)</sup>	34,968名	36,318名
正会員	107名	109名

<sup>(注1)</sup> 都道府県連盟所属会員

## 7. 加盟団体に関する事項

<1>都道府県のダンススポーツを統括する団体を加盟団体

北海道ダンススポーツ連盟  
青森県ダンススポーツ連盟  
岩手県ダンススポーツ連盟  
宮城県ダンススポーツ連盟  
秋田県ダンススポーツ連盟  
山形県ダンススポーツ連盟  
福島県ダンススポーツ連盟  
茨城県ダンススポーツ連盟  
栃木県ダンススポーツ連盟  
群馬県ダンススポーツ連盟  
山梨県ダンススポーツ連盟  
埼玉県ダンススポーツ連盟  
千葉県ダンススポーツ連盟  
東京都ダンススポーツ連盟  
神奈川県ダンススポーツ連盟  
新潟県ダンススポーツ連盟  
長野県ダンススポーツ連盟  
富山県ダンススポーツ連盟  
石川県ダンススポーツ連盟  
福井県ダンススポーツ連盟  
静岡県ダンススポーツ連盟  
愛知県ダンススポーツ連盟  
三重県ダンススポーツ連盟  
岐阜県ダンススポーツ連盟  
滋賀県ダンススポーツ連盟  
京都府ダンススポーツ連盟  
大阪府ダンススポーツ連盟  
兵庫県ダンススポーツ連盟  
奈良県ダンススポーツ連盟  
和歌山県ダンススポーツ連盟  
鳥取県ダンススポーツ連盟  
島根県ダンススポーツ連盟  
岡山県ダンススポーツ連盟  
広島県ダンススポーツ連盟  
香川県ダンススポーツ連盟  
徳島県ダンススポーツ連盟  
愛媛県ダンススポーツ連盟

高知県ダンススポーツ連盟  
 山口県ダンススポーツ連盟  
 福岡県ダンススポーツ連盟  
 佐賀県ダンススポーツ連盟  
 長崎県ダンススポーツ連盟  
 熊本県ダンススポーツ連盟  
 大分県ダンススポーツ連盟  
 宮崎県ダンススポーツ連盟  
 鹿児島県ダンススポーツ連盟  
 沖縄県ダンススポーツ連盟

〈2〉その他の加盟団体

全日本学生競技ダンス連盟  
 特定非営利活動法人日本サルサ協会  
 特定非営利活動法人日本車いすダンススポーツ連盟

**8. 役員に関する事項**

理事 ・名誉会長	小野清子	公益財団法人日本オリンピック委員会名誉委員、 公益財団法人笹川スポーツ財団理事長、 元国家公安委員会委員長
会長 <sup>(注1)</sup>	齊藤斗志二	公益財団法人日本オリンピック委員会評議員、 元防衛庁長官
副会長	中井眞一郎	弁護士・元所沢市長
理事	安西孝之	公益財団法人日本体育協会最高顧問
理事	市原則之	公益財団法人日本ボールルームダンス連盟会長 公益財団法人日本オリンピック委員会名誉委員 公益財団法人日本ハンドボール協会副会長
理事	西田善夫	スポーツアナリスト、元NHK解説主幹
理事	浦 環	九州工業大学特任教授、 全日本学生競技ダンス連盟名誉会長
理事	館 博	東京農業大学教授、全日本学生競技ダンス連盟会長

〈業務執行理事〉

専務理事	山田 淳	
常務理事	金子和裕	組織委員会委員長、情報システム本部長
常務理事	鵜飼慶司	WDSF 理事、ADSF 会長、国際本部顧問
理事	仲野 巽	プロフェッショナル本部長、企画委員会委員長、 倫理相談室長、DTC 担当
理事	居樹保朗	PR 推進本部長、資格認定委員会委員長
理事	溝口 稔	学校教育検討委員会委員長、ジュニア育成部長、 競技本部顧問
理事	金城庸夫	普及本部長、ダンススポーツ医科学研究部長
理事	永井 彰	会員拡大委員会委員長
理事	中道俊之	企画委員会委員長（6月～）、普及本部副本部長、ヘル スプロモーション委員会委員長（～5月）、技術認定部 部長

理	事	山口 剛	競技本部長、競技支援システム部長、 ホームページプロジェクトリーダー
理	事	今泉清隆	マーケティング本部長、事業部長、PR 部長、 財務委員会委員長
理	事	鵜崎清貴	WDSF 財務エグゼクティブ、ADSF 財務担当理事、 国際本部長
監	事	鈴木一夫	公認会計士
監	事	森木行徳	
監	事	森ひさえ	

(注1) 本連盟の代表理事

## 〔Ⅱ〕平成 26 年度事業報告

### 〔総括〕

業務執行理事会を毎月開催（3 ヶ月毎に部長会を併催）し、部門間の意思疎通を図りながら各本部・委員会が事務局と連携して運営を行った。また、インターネットを利用した内部情報共有システム「GINS」上でネット稟議機能を開発して決裁の迅速化を図った。

全国加盟団体代表者会議を2回（6/21, 11/8）実施し大方針および懸案事項について全国の会員代表者、加盟団体代表者との意見交換を行った。

例年実施している事業を除き、特筆すべき項目として中長期課題としての活動について以下にまとめる。

#### 1. ダンススポーツのオリンピック正式競技種目化に向けた活動

IOCによる夏季オリンピック競技種目数上限緩和に伴い、正式競技種目化に向けた活動を開始。ダンススポーツに関する資料をまとめJOCおよび組織委員会に提出。3/6にホテルで記者会見を行いテレビ放映されたほか、3/7, 3/8の東京オープンやFacebook等でダンススポーツの理解を得る活動を行った。

#### 2. ダンス人口の高齢化と減少に対する施策

日本が超高齢化社会に向かう中、ダンススポーツの愛好者が高齢化し減少している。この対策として、以下のような取り組みを行った。

##### ①音楽教室や音楽飲食店で気軽にいつでも合法にダンスが踊れる文化基盤の創出

⇒風営法改正活動

- ・ダンス文化推進議員連盟、規制改革会議、警察庁有識者会議でのディスカッション
- ・他ジャンルのダンス業界との連携（法改正後のダンス産業について検討開始）

##### ②ジュニアやプレジュニア、ユース育成の取り組み

- ・サルサ等の教授法（特にリズム指導）の導入
- ・オールジャパンジュニア・ダンススポーツカップ、JOCジュニアオリンピックカップほか、全国25都道府県連盟の66の競技会にてジュニア区分の競技会を実施
- ・子供たちの憧れとなる次世代の世界的選手、スター選手育成をめざして、ユース・ジュニア選手に対して世界的コーチによる指導、海外遠征など国際的環境の提供を実施
- ・東京オープン、三笠宮杯、グランプリ大会等主要競技会の場を利用したアピール
- ・ジュニア指導員、ジュニアアスリートクラブの増強

##### ③類似ダンスの連携による若年層の交流

- ・ヒップホップ等とペアダンスの壁を低くする活動
- ・イクスピアリ・ワールドダンスコレクション、Legend Tokyo、三笠宮杯等の交流

##### ④学連との連携強化、若手学連OBOGイベントの実施と組織化準備

##### ⑤会員組織構造の見直し：間口を広くするための3種加盟団体の新設

##### ⑥競技会を目指さないハードルの低いダンス普及施策の検討

- ・気軽に楽しめるようになるためのメソッドの研究と導入テスト

#### 3. 斬新なWDSFダンススポーツ教本の翻訳とその解説DVDの制作

（ダンススポーツ医科学研究部／テキスト翻訳プロジェクト）

- ・ワルツ、タンゴ、ルンバの3種類出版（その他準備中）

#### 4. マーケティング活動、事業部活動

##### ①大型オフィシャルパートナーの契約

- ・株式会社ブルボン様、養命酒製造株式会社様の継続

・新たにブルボン・ユースジュニア・ダンススポーツチーム（略称ブルボン DST、ネーミングライツ契約）

②販売用ダンス音楽 CD 制作・販売、教本等の販売（収益事業）

5. 財務委員会による支出カットと合理化、事業統廃合の検討を開始
6. PD（プロフェッショナル本部）の始動と他団体調整
  - ・大分県における九州 PD 競技会の JBDF との共催
7. PR 活動：毎日新聞社、TBS、NHK 等との連携による告知の増大
8. その他、新競技支援システムの開発と普及など

一般会員会費や選手会費の減少、競技会出場者の減少による競技会公認料等の減少、ロヂャース杯冠スポンサーの終了等、厳しい環境の中で、以上のような特筆項目を含む事業を行いつつ、徹底した費用削減を行い、収支を保った。

[公益目的事業1] ダンススポーツの競技会、講習会等を開催し、競技者、指導者の育成及びダンススポーツ愛好者の拡大に努め、もって国民の心身の健全な発達に寄与する事業

## 1. 競技会

当連盟主催の競技会を次のとおり開催した。

(1) 第17回東京オープンダンススポーツ選手権

開催日 2015(平成27)年3月7日(土) [Youth Latinのみ]、8日(日)

開催場所 東京体育館

競技 WDSF WORLD OPEN (St・La)

WDSF Youth (St)

U-23 オールジャパン・ダンススポーツカップ (St・La)

出場組数 延215組

来場者数 5,140人

※ 世界19カ国・地域から世界トップクラスの選手が集結、海外選手も85組が出場し、2日間にわたり観客を魅了した。

(2) 第34回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

開催日 2014(平成26)年10月12日(日)

開催場所 東京体育館

競技 三笠宮杯全日本選手権・スタンダード

三笠宮杯全日本選手権・ラテン

JOCジュニアオリンピックカップ・全日本選手権ジュニア(St・La)

全日本ダンススポーツ選手権ジュブナイル(St・La)

第11回全国子どもダンスうんどう大会

出場組数 延285組、子どもダンスうんどう出場者数：7チーム約93人

来場者数 4,535人

※ 国内最高の競技会として、全国から選抜された選手が集結し、白熱した戦いは観客を魅了した。

(3) 第22回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 長崎

開催日 2014(平成26)年11月9日(日)

開催場所 諫早市中央体育館

競技 都道府県対抗団体戦

A級戦・B級戦・C級戦・D級戦(各 St・La)

出場組数 都道府県対抗団体戦 27チーム 180組

個人戦 延311組

(4) 第9回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ2014in 仙台

開催日 2014(平成26)年7月27日(日)

開催場所 青葉体育館

競技 ユース(St・La)

ジュニア(St・La)

ジュブナイル(St・La)

女子中学生の部(St・La)

小学4～6年生の部(St・La)



小学1～3年生の部(St・La)  
リズム体操  
出場組数 延 321組+12チーム

(5) 全日本選手権10ダンス

2015年開催は、平成27年6月7日としたので、本年度は開催なし。

(6) ダンススポーツグランプリ in 大阪

開催日 2014(平成26)年4月13日(日)

開催場所 五月山体育館

競技 グランプリ・スタンダード

WDSF世界戦選考シニア・ラテン

WDSF世界戦選考ジュニア(St・La) ほか6競技

(7) ダンススポーツグランプリ in 大分

開催日 2014(平成26)年5月11日(日)

開催場所 べっぷアリーナ

競技 グランプリ・ラテン

WDSF世界戦選考シニア・スタンダード ほか8競技

(8) ダンススポーツグランプリ in 静岡

開催日 2014(平成26)年7月20日(日)

開催場所 浜松アリーナ

競技 グランプリ・スタンダード

WDSF世界戦選考ユース(St・La)

WDSF世界戦選考ジュニア10ダンス ほか7競技

(9) ダンススポーツグランプリ in 北海道

開催日 2014(平成26)年8月24日(日)

開催場所 北海きたえーる

競技 グランプリ・スタンダード

WDSF世界戦選考シニア・ラテンほか29競技

(10) ダンススポーツグランプリ in 仙台

開催日 2014(平成26)年9月14日(日)

開催場所 仙台市青葉体育館

競技 グランプリ・ラテン

WDSF世界戦選考シニア・スタンダードほか全19競技

## 2. 競技会の公認、承認及びエントリー組数

不特定多数の参加者を対象とする競技区分6級戦(初級)を含むJDSF及び下部組織、協力団体が主催する競技会の公認・承認及びエントリー組数は次のとおり(2014(平成26)年1月～12月)。

公認・承認競技会 302件 エントリー 85,035組

### 3. PD本部の設置

WDSF から各国メンバーボディー内部に、WDSF-PD のメンバーボディーとして PD 部門を設置するようとの要請があり、それを受けて JDSF プロフェッショナル本部 (PD 本部) を新設した。これに伴い、PD 本部規程を制定した。

### 4. 講習会研修会

#### (1) 指導員

- 公認指導員研修会 59 回、新規指導員養成講習会 12 回、選考試験実施 12 回、昇級講習会 8 回、昇級試験 8 回開催した。
- 第 19 回全国ダンススポーツコンGRESS (2014 (平成 26) 年 10 月 10 日～11 日) を開催した。
- 第 20 回全国ダンススポーツコンGRESS (2015 (平成 27) 年 3 月 7 日～8 日) を開催した。

#### (2) ジュニア指導員

- ジュニア指導員養成講座を計 6 回開催した。
- ジュニア指導員検定 1 回開催した。
- ジュニア指導員研修会 2 回開催した。

#### (3) 審判員

- 公認研修会 4 回、承認研修会 1 2 回開催した。
- 第 1 7 回全国ダンススポーツコンGRESS (2014 (平成 26) 年 3 月 8 日 (土) を開催した。
- 第 1 8 回全国ダンススポーツコンGRESS (2014 (平成 26) 年 10 月 11 日 (土) を開催した。
- 新審判基準に関する研修会及び選手強化部との意見交換をそれぞれ 1 回開催した。
- 新規審判員認定委員会 1 回開催
- WDSF 審判員海外派遣員数 1 9 名

#### (4) 競技長

- 公認講習会 7 回、公認テキスト研修会 10 回開催した。

#### (5) 採点管理長

- 公認講習会 4 回、公認テキスト研修会 13 回開催した。

#### (6) 競技会支援システム運用資格者

- 公認講習会 3 回、公認テキスト研修会 9 回開催した。

#### (7) 技術認定

- ブロック、都道府県連盟主催のもと、グレードコース 45 回、ハイグレードコース 15 回開催した。

#### (8) 選手強化

- 海外合宿を 5 月にイタリアで 1 週間開催し、16 名が参加した。
- 秋季国内合宿を 8 月に鹿島で 3 日間開催し、57 名が参加した。
- 春季国内合宿を 3 月に鹿島で 3 日間開催し、68 名が参加した。
- 海外コーチによる特別練習会を 3 回開催し、75 名が参加した。
- 強化練習会を 6 回開催し、164 名が参加した。
- パフォーマンストレーニングを 76 回開催し、993 名が参加した。

## 5. 資格付与

(1) 競技選手 (平成 26 年 8 月 15 日現在)

(単位=人)

区 分	スタンダード	ラテン
A 級	1,158	360
B 級	2,373	1,105
C 級	4,124	2,022
D 級	3,879	2,386
1 級	1,003	828
2 級	731	727
3 級	905	1,723
4 級	159	240
5 級	180	214
6 級	219	372
無 級	3,953	8,788
計	18,765	18,765

シニア系

区 分	スタンダード	ラテン
シニアⅡA級	351	101
シニアⅡB級	372	218
シニアⅡC級	204	77
シニアⅡD級	1,163	786
シニアⅢA級	430	145
シニアⅢB級	469	209
シニアⅢC級	299	120
シニアⅢD級	1,180	666
計	4,468	2,322

(2) 公認指導員 (平成 26 年 11 月末現在)

(単位=人)

区 分	競技力	普及
A 級	267	81
B 級	1,081	301
C 級	1,147	1,366
計	2,495	1,748

指導員講師	86
準指導員講師	45
甲種特定指導員	1,262

(参考) (公財)日本体育協会認定ダンススポーツ指導者

区 分	コーチ	指導員
	59	176

(3) 公認審判員(平成 27 年 1 月現在)

A 級審判員 95 名 B 級審判員 45 名 C 級審判員 45 名 D 級審判員 9 名

(4) ジュニア指導員、ジュニア認定サークル、ジュニア会員、ジュニアアスリートクラブ会員、ユースアスリートクラブ会員 (平成 26 年 3 月末現在)

ジュニア指導員 417 名

ジュニア認定サークル 57 サークル

ジュニア会員 872 名

ジュニアアスリートクラブ会員 189 名

ユースアスリートクラブ会員 71 名

(5) 公認競技長 (平成 26 年 12 月末現在)

競技長資格者 572 名

(6) 公認採点管理長 (平成 26 年 12 月末日現在)

採点管理長資格者 478 名

(7) 競技支援システム運用資格者 (平成 26 年 12 月末日現在)

競技会支援システム運用資格者 348 名

(8) フィガーチェッカー (平成 26 年 12 月末日現在)

フィガーチェッカー資格者 676 名

(9) 技術認定員 (平成 27 年 3 月末現在)

A 級 173 名 B 級 864 名

## 6. 学校教育

(1) 「学校教育参入支援要領」に基づき、徳島県の中学校 1 校 (1 県) の支援を実施

## 7. 国際関連

(1) WDSF、ADS F 事業への協力

(2) 世界スタンダード選手権等 WDSF 競技会への選手派遣

(3) 国内事業における海外関係への担当、協力、助言

(4) Olympic 関連イベントの準備、活動に協力

## 8. アンチ・ドーピング

(1) 選手会員へのアンチ・ドーピング広報啓蒙活動を行った

(2) 5 競技会において 20 検体のドーピング検査を実施した

## 9. ダンススポーツ・トレーニング・センター (DTC)

DTC 運営に関して、企画立案及び業務支援を行った。

選手強化部を中心に連盟内使用が大幅に増加。また学連 OBOG、他ジャンルダンス等他団体による使用も増加した。

## 10. 新審判基準

国内競技会(各グランプリシリーズや関東甲信越選手権大会)於いて実施運用し審判委員同士の共通認識を高め、大会ごとにレビューを行い客観性・公平性の共有化を図った。また、減点事例等を共有化し、審判員・選手・観客との共通認識化をするために、研修会等(プロ審判員も参加)開催、新審判基準の共有化に努めた。

## 11. ジュニア・アスリートクラブ

世界を目指すジュニア、ユースの競技力向上と会員同士の交流を図り、優れた人格形成を目指すアスリートクラブの活動を引き続き行った。

## 1 2. 公益目的事業への支援要請活動

- (1) オフィシャル・パートナー候補の開拓

## 1 3. 広報活動

- (1) 広報誌「ダンスダンスダンス」の発刊（年4回）
- (2) JDSFホームページによる周知活動
- (3) マスコミへの働きかけ（毎日新聞社、TBS等）

[収益目的事業1] ダンススポーツに関する物品を企画及び販売する事業

1. ダンススポーツ教本、教本DVD、CD、DVD、オリジナルグッズ等の制作及び販売
  - (1) WDSF 教本の日本語翻訳版ダンススポーツ教本（ワルツ、タンゴ、ルンバ）を製作し、これを販売
  - (2) ダンススポーツ教本に準拠した教本DVD（ワルツ、ルンバ）を作成し、販売
  - (3) オランダ業者と提携して音楽CDの制作販売
  - (4) 第15回、第16回東京オープンのDVD制作販売
  - (5) 各種オリジナルグッズを販売
  - (6) 技術認定部制作のDVD及び指導部制作のWDSF教本、DVDの販売